

(様式第4号)

上田市林業振興協議会 会議概要

1 審議会名	上田市林業振興協議会
2 日時	平成28年2月12日 午前9時30分から午前11時40分まで
3 会場	上田市森林センター 2階 会議室
4 出席者	飯田委員、井出委員、大久保委員、大塚委員、大平委員、小山田委員、大川委員、金井委員、倉沢委員、酒井委員、桜井委員、関委員、高橋委員、土屋委員、中嶋委員、中村委員、西澤(一)委員、西澤(節)委員、矢島委員、芳澤委員
5 市側出席者	保科農林部長、倉沢森林整備課長、宮沢森林整備担当係長、中澤森林整備担当係長、松澤森林整備担当統括主査、齋藤森林整備担当統括主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成28年2月19日

協議事項等

1 開会(中澤係長)
2 あいさつ(保科農林部長)
3 委嘱書交付
4 議事
(1) 正副会長の選出 会長 関委員 副会長 倉沢委員 を選出
(2) 報告 上田市の森林整備計画の概要について 森林整備事業の主な施策 ・平成28年度当初予算における主な施策 ・松くい虫防除対策について ・有害鳥獣駆除対策について ・治山、林道事業について ・森のエネルギー推進事業補助金について 森林認証制度について 全国植樹祭について 以下質疑 (委員) 森林認証制度取得に向けた取組について、モデル地域の設定で市有林を考えているようだが、どこにするのか、選定の進捗状況は。また、東山グリーンプロジェクトと関連はあるか。 (事務局) 市有林のカラマツ林をメインに選定をかけている。山の保護活動など前向きな取組をしていることも審査の基準になる。東山などは、保安林にもなっており、色々な団体が活動している。そういうことも含めて選定している。スケジュールがタイトで申請の面積がやっと確定してきた段階である。今回はモデル認証なので、第一歩ということで選定している。 東山グリーンプロジェクトは、東山の景観に危惧された企業から東山の再生のために寄付された寄付金で概ね5年をかけて東山の山林を整備していくプロジェクトで、認証制度とは直接関係はない。 (委員) 松くい虫で伐倒駆除したものが、シートで覆われている。現在のシートは、生分解型が良いが、以前の分解しないタイプのシートの撤去回収が遅れているのではないかと。補助金制度を作って自治会など地元で撤去活動をしていくことはできないか。 (事務局) 大変貴重な御意見である。森林整備課の中で検討させていただきたい。 (委員) そのような制度を導入するとしたら、明確な撤去の基準も作って欲しい。 (事務局) 2週間経てばシートは取れるが、事業には補助金が入っているので県の検査を受けるまでは撤去しないで欲しい。また、木の中のカミキリは死ぬが、早く取り過ぎるとまた卵を産み付け

られカミキリの増殖する温床になってしまうので 1 年くらい又は秋の活動期が過ぎるまで取らない方がよい。

また、残った松くい材もエネルギーとして使えるのでバイオマスへの利用も検討する中で併せて考えていきたい。

(委員) 抵抗性アカマツへの転換とあるが、抵抗性アカマツは実在するのか。

(事務局) 県の林業試験場で作っている。岩手では、量産体制にないっている。

抵抗性アカマツは、枯れない松ではなく枯れにくい松で枯れない保証はない。林業総合センターでは、平成 30 年ごろに量産体制に入れるのではないかとということである。

(委員) 間伐した枝の処理や竹林リフレッシュ事業などに自走式チップパーは利用価値がある。現在、県の方にもなく、武石に 1 台あるが借りることができない。行政で購入して貸し出すことができないうか検討して欲しい。

(事務局) 武石のチップパーは、地域予算で購入した。一般には貸出ししないが、武石地域の自治会には貸出しているのて、相談してみる。また、今後の課題ということで購入について検討する。

(委員) 30 年くらい前にこの地域でも大きな山火事があり、防火線を作った。その後防災の研究は進んでいるのか。

(事務局) 以前は、防火線を作っていた経過もあるが、最近には作っていないと思う。県の災害に強い森づくりの指針を検討したり、御意見をいただく中で検討していきたい。

(委員) 私有林を集めて団地化して森林認証に結びつかないか。市は、私有林に関してどのように考えているか。

(事務局) 今回は、モデルという形で県から提案があった。ターゲットは、オリンピック関連施設で使用する木材で、全国的に認証取得が進んでいると思う。時間があれば私有林も含めたかった。森林認証の申請には、面積や境界の確定が必要で国土調査が進めば可能性はあると思う。このモデル認証でメリットが出るようなら改めて検討したい。

(委員) オリンピックが過ぎればそれほど必要ないということか。

(事務局) 市でも公共施設の建設には、認証材を使用することになってくると思う。認証取得には、費用も掛かるので当面はオリンピックを見据えて考えている。

### (3) 協議

今後の松くい虫防除対策について

上田市の林業振興全般について

以下質疑・意見

(委員) 守るべき松林には、松茸山が含まれている。防除対策の表では薬剤による駆除になっているが、重点エリアを絞り込むことによって薬剤の使用量や頻度を増やすのか。薬剤は土壤生物によって分解されると聞いているが、分解前に松茸に吸収されると薬剤汚染も心配され、健康被害にも関わる。どのように検討しているか。

(事務局) 空中散布を中止して以降、薬剤散布は地上薬剤散布のことである。薬剤散布を実施している場所も林道が整備されている松茸山や景勝地で、薬剤の散布も数十メートルしかできない。薬剤散布は縮小していきたいが、松茸山を抱える組合の方からの要望もあり、止められない現状である。そのような中で樹幹注入剤で予防措置に切り替えて、薬剤散布を減らす取り組みをしている。薬剤散布はカミキリムシを殺すことが目的であるが、樹幹注入剤は松に入ってきたセンチウを退治する。薬剤散布はカミキリ虫ターゲットなので 6 月ごろに散布する。松茸の発生は秋口で、散布量も大量ではないので、健康被害は無いと思っている

(委員) アカマツは、造林樹種だったのか。アカマツが多い理由は何か。

(事務局) 戦後どこの地域も山が丸ハゲになっていて、伊勢湾台風で大被害が出た。そこで GHQ が造林と林道と治山の 3 点セットの公共事業が導入した。山を復旧していくなかで、森林計画制度ができて、土地にあった木が選ばれて、上田はアカマツの適性があったのではないか。また、アカマツは非常にやせた土地に天然更新で生えやすく、植えなくても自然に発生してしまう。

(委員) 樹種転換を進めるということだが、どういう樹種で構成される広葉樹林に移行していくのか。植樹祭では、コナラ、クヌギ、サクラなどを植えることになっているが、将来の活用法、保全対象として意味などの議論と併せて計画を立てていただきたい。

薪について、ペレットは古材の廃材、端材で作るので林業振興と相性が良いが、薪ストーブの燃料で好まれるのが広葉樹のナラ・サクラ・クヌギなどで、無計画に伐採していくとすぐになくなると予想される。薪の活用も将来的に考えた広葉樹林の育成とカラマツなどの間伐材を使った薪ストーブの推進を考えていただきたい。

(事務局) 針葉樹対応のストーブもあり、被害材も循環させるよう検討したい。バイオマス発電で木の需要も見込まれるので、将来を見据えて検討したい。東山の植樹の樹種はみなさんと相談して進めていきたい。

(委員) バイオマスの活用は重要になっていくし、枯れたアカマツの利用は、地域住民も心配していると思う。地域の方々が山に入って、地域で利活用できる、地域の皆さんが参加しやすい仕組みを検討していただきたい。

(委員) 森林認証の関係だが、国際的にかなり厳しい制度だと思う。東山の広葉樹の樹種の話もあったが、認証基準に沿った基本的な考え方も必要ではないか。

(事務局) 認証を受けるには、S G E C (エスジェック) 森林認証管理マニュアルを作成しなければならない。その中には、作業の安全性、機器、通常の施業を明記しなければならないが、樹種指定は入っていない。マニュアルも作成中で認証されたら御確認いただきたい。

山づくりの件につきましては、森林所有者がどういう山づくりを目指しているかを明示しなければならない。市町村では森林整備計画を作成しており、これが上田市の山づくりの考え方になる。

(委員) 森林認証は世界的になぜ出てきたかという持続可能な資源管理が基本にあると思う。まずはモデル地区でどんな形を目指すのか、地域の私たちのためになるか検証していく必要もあると思うのでよろしく願いたい。

5 その他 (事務連絡)

6 閉 会 (中澤係長)

以上